

## 会議結果報告書

1. 会議名 令和2年度第8回印西市環境推進市民会議
2. 日時 令和3年1月25日（月）9：30～11：00
3. 場所 附属棟23会議室
4. 出席委員：岩井会長、白川委員、小山委員、橋本委員、平林委員、福井委員  
事務局：黒田、清田（環境保全課）
5. 傍聴者 1名
6. 配布資料
  - ・印西市環境基本計画（案）作成に対する提案（意見）
7. 内容
  - (1) 開会
  - (2) 会長挨拶
  - (3) 議題
    - ①第3次印西市環境基本計画の策定に対する提言案について

会長：本日は議題にあるように、「第3次印西市環境基本計画の策定に対する提言案」という議題で行う。ここでお詫びしたいのが、白川さんの作られた案に対してコメントがあれば1月18日にまでに送ってほしいという内容を、1月18日ぎりぎりに私から皆さんへ添付資料もつけて送ったが、皆さんにその添付資料が届いていなかったため、本日コピーして、皆さんに配布した。本日は白川さんに作って頂いたこの意見書の案をベースに議論したいと思うが、その前に、私が皆さんに配布した資料について説明させてもらう。「第3次基本計画の背景」というところにある最近の情報として、1番は「パリ協定」、2番は「IPCC1.5℃特別報告書」、3番は「2050年カーボンニュートラル」の話である。今までの文章には載っていなかった「カーボンニュートラル」という言葉が、菅総理のカーボンゼロ宣言で使われ、それ以降ずっと使われている。この言葉を一般の人が聞くと、「何の話だ」となってしまう。

委員：実質ゼロにすることではないのではないか。実質ゼロというのはニュートラルだから、CO<sub>2</sub>の排出権取引も含めてのことである。つまり。日本がCO<sub>2</sub>を全然出さないということではなく、日本が出す分をアマゾンなどの森林吸収分と相殺するということではないのか。

会長：アマゾンもあるだろうし、自分たちの森林の吸収分も入っているだろう。要するにCO<sub>2</sub>を本当にゼロにするという意味ではなく、実質ゼロというのがこの「ニュートラル」という言葉に置き換えられている。

委員：「実質」とは本当にゼロにするということではないのか。

会長：本当にゼロというのは出来ない。この言葉がまだ皆さんの中にきちんと入ってい

ないと思うので、我々もこの話をするときは「カーボンニュートラル」という言葉を使わないといけないと思っている。また、「2050年ゼロカーボンシティ」は約72%の自治体が表明しているが、残念ながら印西市はまだ表明していない。我々の案を見ると、「ゼロカーボンシティ」という言葉は載っているが、「カーボンニュートラル」という言葉はないため、変更すべきである。しかも、「ゼロカーボンシティ」という言葉は、安倍総理の時分に小泉環境大臣が提唱し、未だに続いているものである。そのため、「カーボンニュートラル」とは別に扱わないといけない。それをこの資料の1頁にわたって説明している。新しい環境基本計画の背景には、今や「カーボンニュートラル」の時代になり、実質排出量をゼロにしないといけないという国の方針を示してほしい。次に、2.の具体的な提案では、まずEV、電気自動車についてである。2030年の半ばにはガソリン車を買えなくなり、車を買うならば、電気自動車を買わざるを得なくなるという時代になる。そのため、電気自動車のインフラである充電器を全域に設置しなければならない。そこで一番私が心配なのはマンションやその他の集合住宅である。普通の充電器では充電に7~8時間ほどかかる。マンションでは駐車場が沢山あるため、大体15~30分ほどで充電が出来る急速充電器を設置するか、急速充電器があるスタンドへ行く必要がある。ただし、スタンドでは電気のコストが通常の2~3倍ほどかかるため、大きなマンションなどでは、やはり自分たちで設置しようとなると思うが、そうしたインフラの整備という大きな問題について印西市も取り組まねばならない。そのためにはまず市が率先して電気自動車を導入することが大切である。2050年頃にやればいいという話ではなく、2021年の今年以降に出来るだけ早い段階でそういった体制を市が作らないとならない。そのためには公用車として使っている車のうち、古くなったものは全て電気自動車に変えてほしい。これは生活にとっても影響することなので、2030年までの環境基本計画には載せなければならない。また、水素自動車というのも電気自動車の後に出てくるものである。現在、水素は天然ガスから作られているが、天然ガスではなく原子力で作る方法を検討し、CO<sub>2</sub>を出さない発電を国では実行しようとしている。水素を安く、1m<sup>3</sup>当たり20円ほどまで下げて使うという時代が2030年頃になると来る。私が言いたいのは、印西市ではまずトラックやバスなどの大型車を水素自動車に切り替えてほしい、そして、水素ステーションなどのインフラを印西市に早く普及させてほしいということである。次に「廃プラスチック」についてで、廃プラスチックはこれまで容器包装のプラスチックしかリサイクルしていなかった。それを2030年には全てのプラスチック、これを「製品プラスチック」というらしいが、これを燃やさずにマテリアルとしてリサイクルするという方針を国は出した。印西市も容器包装のプラスチックはリサイクルしているが、その容器包装の6割程度は燃やす燃料になっている。これからはプラスチックを燃やさず、

新しいプラスチックとする時代になるため、印西市も早く対応してほしい。そしてこれらの意見を全部ではないが、新しい環境基本計画に載せてほしい。以上である。

委員：資料にある「ワンウェイ」とは「使い捨てプラスチック」のことか。

会長：「ワンウェイ」とは、出したらそのまま捨てる、燃やしてしまうプラスチックのことである。

委員：私も追加したいことがあるため、説明させてほしい。ひとつは、「見直しの期間をもっと短くする」について、現状に合わせて見直しをしてはどうかということをも p.1 の I の 4. に追加して頂いた。やはり、10年という長期スパンでは考えられないくらい劇的な変化をしているため、もっと早いスパンで見直すべきではないかということが1点である。また、さっきの気候変動に関して言えば、p.3 の 4. に「ゼロカーボンシティを表明する」とあり、さらに「表明だけでは意味がないという意見もあるが」とあるが、ここは削除しても良いのではないか。例えば「市民として何が出来るか話し合う」といった会議として、「ゼロカーボンシティを宣言した街が、市民として何が取り組めるか色々と考えてみるということ」を若者中心に行っている」という記事を新聞で目にしたことがある。そうしたことをやっている街があり、環境省も推進している。ここで色々な話題を取り上げるのはもちろん大切であるが、なかなか市民に取り入れてもらうのは難しいと思うので、例えば「若者を中心に市民として取り組む体制を作る」といった内容を入れてもらえないか。

会長：同じ4. の①で「菅総理が宣言した」とあるが、これは誤りである。

委員：菅総理や小泉大臣などと言わずに、「政府」という表現で良いのではないか。

会長：書くのであれば、「菅総理はゼロカーボンシティ…」ではなく、「カーボンニュートラルを宣言した」とすべきである。

委員：では「政府」という表現にする。では、資料について説明する。環境基本計画の全体について、地球温暖化を背景としつつ、では印西市で何が出来るのかという両輪なのだろうと思いつつ資料を作成したが、これをもう少しカーボンニュートラルについて強調するような内容になるのだと思う。全てを入れるとすると、それだけで提案書のようにになってしまうので、これまで作ってきたこの資料の修正を試みたいと思うが、会長はそれで宜しいか。

会長：了解した。

委員：それでは最初に、「ゼロカーボンシティ」は「カーボンニュートラル」に置き換えていいか。

会長：全て置き換えで良いと思う。

委員：では、p.1 の I の 1. は「カーボンニュートラルの考えを取り入れる」とする。

委員：環境省では「ゼロカーボンシティ」で話が進んでいるのではないか。

会 長：「ゼロカーボンシティ」はあくまで自治体に取り組む姿勢を表明してほしいというものである。企業や一般市民などを含めて、みんなが目指すのはカーボンニュートラルである。

委 員：しかし、カーボンニュートラルは排出権取引が入っており、なんだかごまかしているように感じる。

会 長：それは国が言っている事であり、私もピンとはこない。しかし、新聞などすべてが「カーボンニュートラル」に統一されている。

委 員：了解した。

委 員：それでは次にⅠの4. 環境基本計画の見直しについて、以前は5年で見直すという言い方をしていたが、今回初めてご提案頂き「3年毎」とした。

会 長：3年は近すぎるのではないか。

委 員：私が提案したのは「必要に応じて」で、「少なくとも3年毎」としたが、やはり短すぎるか。

委 員：気になったのは事務局の実務的な点である。忙しさやお金がかかるというのでやっていたらならないか。

事務局：基本は先ほど述べられていた通り5年毎である。他の総合計画なども5年で統一されている。前は当時の担当が見直しをしなかったが、本来はやるべきことではあった。

委 員：前は10年間もの間、同じ目標についてずっと白書で議論してきたのでそれはないだろうという話であったが、5年毎ならいいか。

会 長：5年で良いと思う。

委 員：前回の見直しは担当者もそうだが、私たち市民会議も意識が足りなかったということではないか。環境白書での見直しはいつも言っていたのに、環境基本計画となると見直しをしましょうということを言っていなかった。やはり市民会議としての機能が十分ではなかったと思う。

委 員：この市民会議を通じて岩井会長はずっと「10年は長すぎる」と言ってこられ、実際に見直しはしなかったが議論はされていたと思う。

委 員：しかし実際に計画を見直すともできたと思う。

委 員：一先ずここは5年毎として良いか。

委 員：それでお願いします。しかし、本当は「必要に応じて」として、「少なくとも5年毎」とはすべきである。

委 員：「必要に応じて」は最初に入っている。

委 員：それならば問題ない。

委 員：では5年毎で決定とする。

会 長：特にすぐ変わる可能性が高いのは、私が先ほど述べたプラスチックについてである。あれが2030年までに法律で60%ほどリサイクルするよう国で検討されている。

るようである。これが法令になったらすぐにやらなければならない、放ってはおけないと感じている。

委員：次に、赤字で示しているのが皆さんより御意見を頂いて加筆修正した箇所である。

委員：p.2の1.の③について、「特定外来生物のオオキンケイギク」とあるが、追加で入れてほしい植物がある。

委員：ナガエツルノゲイトウではないか。オオキンケイギクより問題である。

委員：その植物である。それを加えてほしい。

委員：自分の体験であるが、その植物は農機具にくっついてきてしまい、どんどん繁殖し、人間の範囲へ近づいてきている。しかも地下茎のため、取っても出てきてしまう。田んぼを持っている農業従事者の人たちを中心に、多くの人に知ってもらうということが第一ではないかと思う。

委員：1.の①で「特定の地域」という部分について、「別所」とあることについて、ここは別所というよりむしろ竜腹寺辺りを入れてはどうか。ホタルの調査もされてとても良い所と分かっていると思うがいかがか。別所は亀成川一带に含まれているため、竜腹寺など他にあれば入れてもらいたいと思う。竜腹寺は旧本埜地区である。

委員：先ほどの「ナガエツルノゲイトウ」は全てカタカナで良いか。

委員：全てカタカナである。

委員：ナガエツルノゲイトウは亀成川にもびっしり生えている。オオキンケイギクは景観の問題が大きいですが、ナガエツルノゲイトウは農業被害がはっきりあるため、どちらかと言えばこちらの方が優先的な問題である。

委員：農機具にくっつくと言っている部分は文章化しにくいがどうするか。

委員：それは入れず、特定外来生物としてナガエツルノゲイトウの名前が入っていれば良い。

委員：では、p.2はこれで修正とする。次にp.3では、土砂災害について追加させて頂いた。3番の都市環境についてはこれで宜しいだろうか。

会長：井戸の話題についてはこの箇所だっただろうか。

委員：手動の井戸を設置するという話は入っている。

会長：手動の井戸について、小学校などにもあるが全然使われていないという話だったかと思う。

委員：使われていないというのは、使えばいい話である。

会長：使う気がないということか。水質が悪いから、子供が飲んでしまったら大変ということなのかと思った。

委員：子供にも「この水は飲んではいけない」ときちんと指導すれば分かると思う。あって邪魔なものでは決してないと思う。

会長：小中学校、高校全てで井戸を作るべきだということか。

委員：その通りである。

委員：わざわざ「手動」と言っているのは、そうでない井戸もあるのか。

委員：手動でないのは、防災として体育館の横などある。

委員：手動でないのは電気式などか。

委員：そうである。電気では停電したときに使えなくなってしまうため、手動がいい。

委員：「非常時の井戸を増設」とあるが、小中学校や高校に設置とは違うものか。

委員：非常時の井戸とは、自治会などのイメージか。

委員：例えばこの市役所の中などにもあるが、そういった井戸が支所などを含めて5か所かある。しかし、それだけでは足りないのではないかという話である。

委員：具体的にどういったところに増設したらいいのか。

委員：全ての支所や小中学校につけて欲しいとは言っていない。

委員：要は防災目的であるか。

委員：その通りである。

委員：小中学校の手動の井戸もどっちかという防災の目的なのではないか。どちらも防災上のために井戸を増設するとすればまとまるのではないか。例えば、公立の小中学校などは手動の井戸を設置する。

委員：では、手動の井戸をつける場所は小中校で、そちらの井戸は公共施設というイメージで良いか。

委員：その通りである。

委員：公共施設に防災井戸を増設するとして、公立の小中学校や高校には手動の井戸を設置するということが良いのではないか。

委員：了解した。

会長：もう一度、4. の地球環境について、印西市はゼロカーボンシティを表明してくださいということを書いているが、この計画書が出るころにはすでに表明していますよと言われるのであれば、ここに書く必要はない。だからそれを確認したい。これが出るのは再来年度か。

事務局：環境基本計画は来年の4月を予定している。あくまでも意見としてお出し頂くものなので、入っていても問題ではない。

会長：了解した。では、これはこのままとする。

委員：4. の①について、「表明だけでは意味がないという意見がある」とあるが、これは止めて、やはり市民が考える体制を作った方が良い案が出てくるのではないかな。難しいかもしれないが、若い人が参加して意見を出すような場を作る必要があるのではないかな。それは役所の若い人でも良い。本当に自分たちのこととして関係する世代が必要である。

委員：都市環境に入っている⑦を5. の人づくりに入れてはどうか。

委員：了解した。5. 人づくりの③と被っているので、そちらに吸収することとする。

- 会長：ついでに、p.3の5. 人づくりについて、「event」と英語で書いてあるがカタカナで良いのではないか。
- 委員：それならば4. の②にある「plan」もそうである。
- 委員：では、指摘の辺りは極力カタカナとする。p.1の「review」はどうすれば適当か。
- 委員：「見直し」ではどうか。
- 委員：では「見直し」とする。ESGやSDGsはこのままでも良いか。
- 委員：これらはそのままが良いと思う。
- 委員：では次に、小山さんの意見の文章化にご協力いただきたい。「表明だけでは意味がない」の部分について、アンダーラインを引いている部分は全て削除し、「若者」という内容はどうか。
- 会長：「市民（若者）が話し合える場を作ってほしい」という内容で良いか。若者以外が駄目という話ではないが。そして我々の言葉で言うと、「温暖化防止について考える場を作ってほしい」ということである。
- 委員：「具体的な対策を」はどうか。市民が具体的な対策を検討する場を作ってほしい。
- 会長：私から言うと、温暖化について市民が出来ることは限られている。電気自動車になれば、車をたくさん使っても直接的なCO<sub>2</sub>は出ないし、電気は全てLEDになってほしい。だからせめて、お風呂のエネルギーを少なくしようとかそれぐらいで、市民が出る幕があまりない。
- 委員：それは市民の暮らしのことである、私が言っているのは、もちろん暮らしも大切であるが、政策提言も含めてである。例えば電気自動車の話など、市役所から導入するにしても、やはり市民の考えは聞いた方が良いと思う。
- 会長：了解した。それは良い考えである。今の意見を上手く文章化してほしい。
- 委員：本日で最終にするという話なので、私と事務局にお任せいただく形で良いか。
- 委員：了解した。政策的なことも含めて、例えば住宅を誘致する場合は緑をいっぱいにしようなど、そのようなことを含めて話し合える場を作った方が良いと思う。普段の生活では行政に対して言える機会はほとんどない。しかし、ゼロカーボンシティを目指すのであれば、都市像というものがあると思うので、そこに具体的な案をたくさん言って、考えることによって市民のものにもなるのではないか。
- 委員：一つの案だが良いだろうか。「市民（特に若者）が温暖化に対する具体的な対策（政策提言）を検討する場が求められる」はどうか。
- 会長：良いのではないか。
- 委員：ではそのような文章でまとめるとする。
- 会長：次は4. の地球環境について、電気自動車を書いてあるが、普及に関しては特に「市が率先して」という言葉を入れてほしい。
- 委員：了解した。
- 委員：私は一つ分からないことが、電気自動車と言っても小型のものや大型のものなど

色々と種類がある。どう見ても燃費が悪そうなものもある。その中で電気自動車にして、電気を作るために沢山の石油などを消費してもその方が良いのか。

会 長：今の電気はほとんど火力発電から作られているが、それでも電気自動車にするとガソリン車よりエネルギーは使わない。それだけでCO<sub>2</sub>削減にはなるが、将来的なゼロの時代になったら、電気そのものがカーボンフリーになり、石油から作られた電気は一切使わないということになる。そのために、先ほど述べた風力発電が原子力発電 45 基分を作るや、原子力で水素を作るという話がどんどん出てきている。ただし、今は水素について非常にコストがかかっているため、これを今の 10 分の 1 程度にしなくてはならない。その技術もあり、目途も立っているが、10 年 20 年先の話である。

委 員：印西市に求めるのは、市が電気自動車や水素自動車を率先して導入し、その問題点などを明らかにすることか。

会 長：そうである。

委 員：普及指導ではないか。

委 員：普及支援か。

委 員：支援と言ったら、電気自動車を購入する際の補助金などになる。

委 員：では、「普及指導」にして () で「市が率先して導入する」ではどうか。

会 長：市民には指導だが、役所としては率先して導入して、色々なインフラの問題をここでクリアにして解決する。

委 員：ここの地球環境の③に電気自動車だけで良いのかという気がする。もう実際に太陽光パネルに対しての補助金を出しているが、太陽光発電などすでにあることは良いのか。

会 長：これは今までにないことをしようという提案である。

委 員：何か他にないのか。

会 長：それを言うならば廃プラスチックを燃やさないなどがある。

委 員：それも入れてはどうか。しかし、それ以外にもまだあるのではないかと思う。

委 員：初歩的なことを聞いても良いか。車とかは分かるが、我が家では冬の暖房に石油を使っている。ゼロカーボンに向かって、エアコンなどを使っている人はソーラーでも良いが、我が家のような例はどうすれば良いのか。

会 長：石油は使わないで、人工のカーボンが出ない植物性灯油などを使うということを国は言っている。

委 員：それは市場で出回っているのか。

会 長：これから作って普及させていくものである。今はバイオディーゼルと言って使用済みの油からガソリンを作って、軽油もどきとして車が走っている。もっとそういったものを一般市民が使えるような灯油レベルのもので大量に作るなど、世の中をガラッと変えていきたいと思いますということである。



- 委員：了解した。
- 委員：地球温暖化のために何かほかに出来る気がする。
- 委員：それについては思いついたら言ってほしい。それでは最後の p.4 について。
- 会長：「ゼロカーボンシティ」の後に先ほど言った「カーボンニュートラル」を入れてほしい。
- 委員：ではそれを入れる。全部はチェックできていないが、従来載せているものでいいもの、やめた方がよいというものはないか。生態系などはあるのだろうか。
- 会長：私が付け加えたいのは、地球環境で農業のところに適用されるが、ソーラーシェアリングである。畑の 3m ほど上に太陽光パネルを置いて、それで農業をやるというものである。それは千葉県から出発し、1 県を除く 46 都道府県で行われている。農業従事者にも利点があり、太陽光発電をしながら農業をするので、発電した電気を売るか、自分たちで使うかができ、農地が発電所になるということである。
- 会長：ソーラーシェアリングというのは、印西市では誰もやっていない。
- 委員：確か白井市ではやっている。
- 会長：その通りである。それを入れたいが、皆さん方の承認がないといけない。また、欠点もあり、太陽光発電をつけるためのお金が結構かかる。そして、それを 3 年毎に農業委員会がチェックして、8 割以上で農作物の生産がないと農地として認められず、農地以外の土地扱いとなり税金がとても上がってしまう。農業委員会がそれを決めるため、途中で辞めてしまうとただの太陽光発電所になってしまい沢山の税金が取られるのを恐ろしいと農家の人は感じており、二の足を踏んでいる。国としては、それではいけないのもっと普及させようとしているが、国の方針にはソーラーシェアリングという言葉は出てこない。
- 委員：営農型太陽光発電というものか。
- 会長：日本語で言うとそうである。
- 委員：これはどうするか。地球環境の④に入れるか。
- 会長：私は入れたいと思っている。ソーラーシェアリングが一般名なので、( ) で営農型太陽光発電とすれば良いのではないか。
- 委員：いや、ソーラーシェアリングだと分からないので、営農型太陽光発電に ( ) でソーラーシェアリングではどうか。
- 会長：それで良い。ほとんどの農産物は太陽光が強すぎると成長しない。ある程度遮光した方がむしろ成長するというデータがある。もちろん、太陽光があればあるほど成長するという植物もあるが、それは 2 割程度であり、あとは太陽光を少し抑えた方がよい。これから温暖化が進むほど、光が強くなり、ますます必要性が強くなる。
- 委員：そういう意味では、今は石油を使った農業が多いが、それを抑えられニュートラ

ルになるのか。

会 長：特に私が良いなと思うのは、農業だけではあまり労力に見合った収入がないが、太陽光パネルを付けると収入がしっかりできるため、後継者が手を挙げるということである。ただ、太陽光パネルも 20 年程度で寿命が来てしまうため、その都度交換する必要はある。

委 員：ここに提案するのは印西市にもソーラーシェアリングへの支援をしてほしいという意味合いか。農家にとって収益につながるならば勝手にやればよいとなるが、そうではなく、補助金を出してほしいということの良いか。

会 長：それが一番良いと思う。

委 員：では、ソーラーシェアリングの普及援助と書いて良いか。

委 員：神奈川県はソーラーシェアリングの普及拡大と書いている。

委 員：他の方はどう思われるか。

委 員：良いのはとてもよく分かるが、農業関係者は皆さん年がいつているのが現状であり、それを今から自分たちの代でやるというのは難しいと思う。若い人が営農するような方向になれば、「良いね、やろう」となるかもしれないが、今の営農者たちにそれを言ってもだれも手を挙げないと思う。

委 員：しかし、良いものではあるので、提案はしても良いのではないか。

会 長：ただ、パネルのために土地を貸しても良いと思う。そして、その使用料を取るだけでも野菜を売るよりは収入になる。

委 員：そういった意味では、池に石を投げるような感じで一石を投じるとして、具体的な案としてはまだ固まっていないが、入れるのはどうか。

会 長：選択肢としては良いと思う。

委 員：しかし、ソーラーパネルを農地にどんどん入れる問題はすでに出ている。そして、20 年で駄目になる物をどのように処分するかという問題もある。

会 長：それはすでに 20 年経っているものもあり、リサイクルできるらしい。

委 員：以前、環境推進市民会議の方で、目の前に突然太陽光パネルが設置されたという話があった。そういったところの兼ね合いが上手くいくのか。

会 長：ソーラーシェアリングは 3.5m ほどの高いところに太陽光パネルを設置する話のため、近くに高層のビルなどがあると光が反射する光害になるが、農地だったら問題ないと思う。

委 員：しかし印西市の場合、北海道のようなとても広いところにある農地ではないため、街の中にあったり、家がすぐそばにあたりする。うちの場合は、一度田んぼの上にやってみようかと考えたこともあったが、側に道路が通っているため、車への反射で事故とかにつながるのではと考えてやめた。

委 員：出来るところでやるとして、書いたら良いのではないか。

委 員：了解した。一石を投じるような感じで、4. の④に追加することとする。

委員：白井市では農作物として何を作っているのか。

会長：色々な種類の野菜を植えて、どれが最も生育が良いかなどの調査をしていた。市の職員の方が、自分の土地を使ってやられていた。

委員：しかし、印西市で広がらないということは何か問題があるのかと思う。

委員：ソーラーシェアリングは、南の方の人たちが結構やっていた。防災にも繋がり、ケーブルで電気を引っ張って、充電に使っているという話も聞いた。

会長：これから電気自動車が普及すると、増々その要求は出ると思う。停電になってもソーラーは動いている。あとは市がどれほど応援してくれるかということである。

委員：実際に農政課でそういった話が出ているなどは聞かれていないか。

事務局：今のところ聞いてはいない。

会長：さっき出たプラスチックについて、ここでは、容器包装と製品プラスチックと両方について書いてあるので問題ない。今、プラスチックは6割程度が燃やされており、プラスチックを溶かして再び利用するというのは、技術的には可能だが難しい問題であると思う。千葉市では製品プラスチックの中のポリエチレン製とポリプロピレン製だけを回収して、それぞれ製品を作る用に分けており、その他のプラスチックは量が少なく多岐に渡っているため、燃やすしかないが、そういったテストを行っている。

委員：いずれにせよ生活の見直しということを書いた方が良いと思う。今はプラスチックも電気も好きなだけ使っているが、そういった生活は近いうちに人間自身を脅かすということが目の前に迫ってきている。そのため、私たちの生活を見直すということを一言入れてほしい。

会長：再生利用されたプラスチックしか使わないなどか。

委員：プラスチックもそうであるし、ガソリンでも、生活を少し考えてみようという言葉を行行政の取組だけでなく入れてはどうか。

会長：それには賛成である。プラスチックは話だけ大きく出て、容器包装以外は法律も何もない。だから、市民はどうしてよいか分からない。しかし、法律も改正されるだろうし、我々もプラスチックの分別を更にやらなければならない。そういった時代が目の前に来ている。

委員：市民のみなさん宜しくとは言いづらいと思うが、どうなのか。

委員：それは人づくりの話にも関係してくるのではないか。

会長：市民ではなく、行政だと思う。

委員：しかし、行政だけというのではなく、市民も何かしら気をつけなければならないと思うが、なかなか環境基本計画には書きづらいだろうか。何か一言あっても良いと思う。

委員：一先ずこのようなところで宜しいか。コロナがこんなに蔓延してくると、地球温暖化などと言っている場合じゃないとなるかもしれないが。

委員：しかし、考えるには良い機会だと思う。例えばそんなに飛行機を使わなくても会議が出来ると分かったし、コロナを機に地球あつての生活を考えるというきっかけにはなると思う。ただ、デリバリーの普及などでプラスチックだけは次々と使うことになる。

委員：新型コロナウイルスによって私たちの生活スタイルを変えることになったというのは事実ではないか。そういった差し迫ったことがあればできる訳である。そういう意味では、地球環境の問題も一緒ではないかと思う。

委員：では一先ず、このような内容でまとめて良いか。

会長：お願いする。

委員：最終的には修正したものを事務局へお送りすれば良いか。

事務局：送って頂ければと思う。

会長：これは最終的にどのように扱われるのか。別途審議会のような場にこれを出すのか。

事務局：これから環境基本計画を作る前段階として、印西市の現状や課題をまとめた資料を来月に向けて作成する。その資料にこの意見を反映させて頂く。

会長：それは市の中でする作業か。それとも委員などを公募してやるのか。

事務局：意見の反映は市で行い、審議会の皆さんに対しても、現状と課題についてこれで問題がないかと見て頂く。

会長：それをこれから1年かけてやるのか。

事務局：現状と課題については来月確認していただき、それを基に骨子案などを作成していく。

会長：これを市長が見る機会は無いか。

事務局：出来上がった計画として見ることになる。

委員：今回は自然環境調査もやられており、調査の方はとても良かったと思う。谷津の地域や都市開発地域など、そういったものが活かされるような環境基本計画となれば良い。環境白書のチェック項目は環境基本計画に基づいて一緒に作られるのか。環境基本計画に書いていないと、白書のチェック項目にならないということか。

事務局：その通りである。

委員：皆さんがこれまでチェック項目にないと言っていたことが入れられるかどうかということを、まだ環境基本計画の案の段階では私たちが検討する時間はあるのか。

事務局：来年度、また1年間かけて骨子案などを皆さんにもご覧頂き、意見を頂ければと思う。

会長：我々市民会議の提案を市長に説明することは出来ないのか。

事務局：その予定は特にない。しかし、このご意見を基に骨子案などを作っていく。

会長：今はとても大切な時期なので、市長にも考えを説明したいという気持ちはある。

地球温暖化の話だけでなく、印西市の環境はどうあるのかという話について、一度作る前にやっておきたいと思っていたが、そういった機会がないということか。

委員：しかし、ゼロカーボンシティ宣言については説明に行ったのではないか。

会長：あくまでも談話室である。地球温暖化だけでなく、印西市のすべての話をしたい。

委員：では事務局の方に、この資料を修正したものをお送りする。

会長：もし気が付いたことがあれば、いつまでに出せば良いか。

委員：もうこちらで最終となる。追加で入れるというのはご勘弁いただきたい。

会長：了解した。では議題はこれで終了とし、次はその他についてお願いします。

## ②その他について

事務局：環境推進市民会議の任期が今年の4月末までとなっている。3月1日の広報に募集のお知らせを掲載予定となっているため、そちらから応募いただければと思う。今年は特に皆さんから環境基本計画に対する提案を頂いているため、引き続き来年度1年間の策定でも御意見を頂きたい。

会長：来年は1年間何をするのかと思っていた。

事務局：来年度はまた毎回ではないかも知れないが、1年間かけて骨子案や素案などを作っていく。

会長：市の案について、また広報をして市民の意見を聞くということはするのか。

事務局：パブリックコメントを実施する。

会長：温暖化についてまた色々出てくるだろうから、やることは多いと思う。

事務局：次回の市民会議は2月19日に204会議室で開催予定である。

委員：3月はないのか。

事務局：3月の開催予定はない。では、こちらで会議を終了とする。

以上

令和2年度第8回印西市環境推進市民会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和3年2月19日

印西市環境推進市民会議 委員 福井 章夫

印西市環境推進市民会議 委員 岩井 邦夫